

働く人の声を届けます

【山形労働局】

仕事の魅力発信!

「医療」の仕事について、どんなイメージを持っていますか？
チャレンジしてみたいけれど、実態がわからなくて不安…、
という方も多いのではないのでしょうか？
そこで、実際に「医療」の現場で働いている方々にお話を伺いました。
現場のリアルな声を通して、「医療」の仕事の魅力をお伝えします。

医療

Health care workers
Real Voice!

理想の仕事、理想の子育てができる魅力ある職場です!

山形県立こころの医療センター
看護師(24年目)



外来で看護師として、検査や治療の介助、救急外来の対応等をしています。患者さんは年代も職種も様々で、抱える問題も多岐に渡り複雑です。患者さんが地域で暮らしていけるように、多方面から情報収集し、行政や福祉等様々な分野と連携しながらサポートしていきます。皆さん仕事に対するモチベーションが高く、チャレンジしたい事に上司が背中を押してくれる魅力ある職場です。

職場には、仕事と家庭生活両立のための様々な制度があります。私も子どもが3歳に達するまで休業できる「育児休業制度」を利用し、2歳近くまで休業しました。復帰当時は病棟勤務で夜勤もありましたが、曜日や回数を調整して頂いたり、育児時間や看護休暇制度など様々な制度を子どもの通院や送り迎えに利用できるので、安心して育児と仕事ができています。子どもをすぐに受診させてあげられるのは親としてありがたいし、子どもとの貴重な時間を一緒に過ごすことができているのも嬉しい。日々、子どもからエネルギーを貰っています。自分や家族の思う理想の仕事、理想の子育てができる職場。育児以外にも、介護のための制度も手厚いですよ。

高齢化社会で必要とされる、責任ある施設看護師の仕事。

社会福祉法人みゆき福祉会
施設看護師(23年目)

スタッフ全員が同じ介護ができるようなマニュアルの作成や、利用者様の健康管理や介護職員への喀痰吸引指導等、施設看護師の仕事をしています。施設には医者がいないので、病棟以上に看護師に求められるものが多く責任ある仕事です。適切な判断のためにも、日頃から介護士とのコミュニケーションを大事にしています。昔は看護師といえば具合が悪くても休めないと言われる業界でしたが、無理をしても本人はもちろ子どもや家庭にも良い影響はないので、職員にも声がけをして「言える」雰囲気作り、働きやすい環境作りを心がけています。

施設看護師は高齢化社会に無くてはならない仕事です。医療が必要な利用者を受け入れて対応するために、今後は介護士が看護師と同じように対応できるスキルを身につけ、業界全体でレベルアップしていければと思います。最期を迎える場所として、本人もご家族も「ここでよかった」と思える介護と医療をしたいと日々思っています。今後はもっと若い人にもこの仕事の楽しさを知ってもらうために、高齢者が地域の人と触れ合う機会を増やしていきたいです。



仕事の魅力発信!

health care workers
Real Voice!

医療

看護師でも働き方は様々。 自分に合う職場が施設でした。

社会福祉法人 みゆき福祉会
施設看護師 (17年目)



特別養護老人ホームで看護師として勤務しています。利用者様の健康、体調管理がメインで、必要な利用者様には吸引や胃ろう等の医療的な対応をしています。高齢で認知症があり、症状が自覚できない方も多いため、利用者様の性格や生活リズムを考慮して判断するために、日々介護士さんと連携しながら対応しています。毎日一緒に過ごす利用者様が何事もなく楽しそうにしているのが一番嬉しいですね。

以前は県外の総合病院に勤務し夜勤もありましたが、結婚出産を視野に入れてUターン。夜勤が無く家から通いやすい当施設に入職しました。夜は何かあった場合に出勤するオンコール勤務なので、うちの子どもはあまり「看護師は夜は夜勤で家にいない」という印象がないと思います。女性が多い職場で女性の上司もいるので、子どもが急に発熱した時も、みんなが「お互い様」の精神でフォローしてくれました。子どもが小さい大変な時期を乗り越えられたのは、介護休暇や時短勤務などの制度がしっかりしていたからこそ。そこを乗り越えられるサポートがあったからこそ、長く働くことができると思います。看護師といっても、職場は「総合病院」もあれば「施設」もあり、働き方は様々。私は、自分にあった職場が施設でした。

AIには代わる事ができない、 患者さんに寄り添う仕事です。

山形県立こころの医療センター
看護師 (29年目)

看護師として、精神科救急病棟で入院患者さんの看護をしています。患者さんの血圧測定やお薬の管理、食事の介助等しながら患者さんの自然治癒をサポートし、自立と社会復帰のための援助するのが仕事です。精神疾患のある患者さんは意思疎通が難しい場合も多いのですが、その中でも患者さんに寄り添いニーズを把握し対応することで信頼関係を築けた時、共に回復を目指し元気になって退院できた時にはこの仕事にやりがいを感じます。

学生の頃、大学病院に検査入院をした際に、担当看護師さんから男性看護師さんもいると聞き、この仕事に興味を持ちました。昔は女性のイメージが強かった仕事ですが、今は「看護婦・看護師」から「看護師」と名称が変わり、男性も増えています。

専門職として常に学ぶ機会に恵まれていることも、この業界の魅力です。患者さんによって症例も様々、新しい事の連続で日々の仕事が学びに繋がっています。長く仕事をして思うことは、医療はまさに日進月歩。ですが、変わらない事は技術的な事以上に、「患者さんに寄り添う気持ち」が何よりも大切だということ。今後AIが発達しても、患者さんに寄り添う部分は、人にしかできない仕事だと思います。

